

環境安全委員会においては企業倫理と法令遵守の一層の徹底を図るとともに、直面する課題にプロアクティブに対応することを基本方針にして活動しています。

当面の取り組みとして、専門部会活動を通じて化学物質管理、地球温暖化防止、廃棄物管理などの自主管理活

動を一層推進することとし、CO<sub>2</sub>排出量削減対策や医療関連廃棄物の取り扱いなどについては関係する他団体とも連携を取りながら進めています。

2003年度の活動についても計画に則って積極的に展開してきましたが、その概況は以下の通りです。

	計 画	実 績
組織体制・運営の合理化	業界全体ならびに個々の会社に真に役立つ活動を効率的に実施することを目指し、環境安全委員会の組織体制・運営について見直します。	第1ステップとして、2003年度より委員会社と連絡担当者会社の区別を無くして全て委員会社とし、委員会情報の共有化を図りました。第2ステップは2004年度初頭から、正副委員長会議ならびに専門委員会を廃止し、組織運営体制のスリム化を達成しました。
専門部会活動	継続的な活動テーマについては専門部会活動として従来以上に製薬企業としての独自性を追求しながら具体化していきます。	「PRTR調査活動の推進」「第2期有害大気汚染物質自主管理計画の推進」「環境マネジメントシステムのフォローアップ」「安全衛生管理状況実態調査」「省エネルギー・地球温暖化防止に関する調査」「製薬企業の廃棄物処理実態調査」等のテーマについて部会毎にワーキンググループを編成して取り組み、自主管理活動計画の目標達成のための進捗管理ならびにそのフォローアップを行いました。
研究会活動	製薬企業として近々に具体的活動が望まれる中長期的なテーマについては研究会課題とし、前年度よりさらにテーマを具体的に発展させた活動にします。	「リスクコミュニケーション・リスクアセスメント」「環境会計」「温暖化防止政策等」「ライフサイクルアセスメント」の4テーマ研究会にて事例研究を通して、製薬企業への活用策を検討しました。
協会外組織との連携	業界横断的な取り組みが求められる事項については、テーマ担当部会と連携し、部会活動や研究会活動テーマとして取り組みます。	企画会議が窓口となり、部会と連携を取りながら次のように医師・薬剤師等の医薬品ユーザーとの情報交換を図りました。 ● 医療廃棄物研究会第23回研究講演会にて製薬協の取り組みを紹介 ● 「医薬品容器包装等の廃棄に関する手引き」のフォローアップに関する検討
効率的なコミュニケーション	製薬協環境報告書の発行の他、委員会活動にあたっては電子媒体を通信手段として有効に活用し、各種会議に際してはTV会議を積極的に組み入れます	環境報告書を計画通り発行（冊子版：日本語、WEB版：日英語）する他、会員向け情報発信媒体である「かんきょうニュース」を作成して四半期毎に会員用情報ネットワークに掲載しました。さらに今年度は幹事会や企画会議だけでなく、各部会活動でもTV会議の利用促進に努めました。